



2025.12.1 継続は力なり？ときどき新聞10周年

発行元 小久保運送（有） / かたづけダンベえ 0270-32-1542



9 赤帽ときどき新聞 VOL.1

SW期間 常総市へボランティア ご報告



■ 当社の新しいサービス



1. 2019年12月31日，甲公司“应付账款”科目所属各明细科目期末贷方余额如下表所示：

「ときどき出せばいいや」。そんないい加減な思いと、我々のことをお客様に少しでも理解して頂き、継続したお付き合いができればという思いと、自身が所属するNPO法人が発する、様々な地域情報を掲載する場として、このときどき新聞を始めました。

記念すべき第1号は、2015年9月末日付。関東東北豪雨災害で大変な水害が発生した旧水海道市へ、ボランティアに行ったことを記事としました。奇しくもそこは、仕事で良く訪れたエリアでありました。仲間に誘われメディアの映像を見て「これは行かなければ」という思いで参加。そしてこの状況を伝えられないかと考え、運送業者の壁新聞にふさわしいか迷いながらも写真と文字を起こした記憶があります。

その際は何ら反響も無かったですが、号を重ね

るごとにお客様から「ランチの選択に役立ってますよ」等の声を聞くことも増えてきました。

更にこの新聞は、弊社が行っているお片付けサービス「かたづけダンベえ」のご利用者へ向けて、年何度が直接郵送させて頂いております。その際には、通常の何倍もの発行数になりますので、自前のカラーコピーではなく、印刷業者さんへ依頼しての印刷としております。

最後に、この新聞を発行してきたおかげで、本業のお客様やお片付けのお客様と、大げさに言えば絆の様なものが保てているような気がしています。時折頂く反響やお礼の声に、言葉には「言霊」は宿るのだと改めて思いながら、これからも次の5年10年を目指し、「ときどき」にならないよう発行していこうと考えております(笑)
今後とも「ご笑読」何卒宜しくお願い致します。



かたづけダンベえから

時折、お客様から出されたゴミで、これいらないんですか？とお聞きするようなことがあります。正直買取はできないけれど、廃棄してしまうにはちょっともったいないな、と思ってしまうモノ。

そういうモノが出てきた際には、お客様が要らないと言うことであれば、お引取りさせて頂いて、欲しい方に橋渡しをすることもございます。

先日そんな流れであるモノが出てきました。お客様に確認すると、要らないので捨てて下さいとのこと。欲しい方に安く譲るなどしてもいいですか？と許可をもらって、ネットに掲載し、めでたく欲しい方に渡すことができました。

もちろんいつもというわけではないですが、そうした結果、不要なお品も再度生きるわけで、何となく良かったな～という気持ちになります。

そろそろ年末。不用品を整理してすっきりしたい。でも1人では大変。そんな時は是非かたづけダンベえにご相談下さい。

フリーダイヤル 0120-895-371
(やくごみない?) まで お気軽に。



11月で6年を迎えた『和風ファンニングー入伊勢崎店』さん。シックな照明の和モダンな寛ぎ空間でいただけるのは、美しい盛り付けと新鮮な素材へのこだわりが絶品ランチをご紹介いたします。ランチタイムは、メイン、ご飯、小鉢などがそろったセットメニューが充実。中でも特に人気なのが、数量限定の「ー入御膳」(写真)。3段の重箱になつていて、1段ずつ開けるたびに、思わず「わあ!」と歓声が上がります。2618円(税込)ととてもお得です。数限のため、開店と同時に駆け込むか、事前のご予約がおすすめ。レギュラー御膳は限定なしで平均的なランチ予算は1800円程度。

店内は、全130席のうち全十一室が個室というプライベート重視の空間。テーブル席とお



座敷席の両方をご用意しており、掘りごたつ風のお席もあるため、訪れるたびに異なる雰囲気を楽しめます。

2 ～ 30人まで対応が可能です
仲間内のお食事はもちろん、お食いの初めや七五三、顔合わせなど人生の大切な節目のお祝いの席にもびったり。法事にも対応してくれます。特に11月はお祝い事が多いので「週末は予約を」とマネージャーの松本さんは呼びかけます。

お昼のコースは 8品 3350円。取り分けではなく、一人ひとり御膳を用意してくれるそう。特別感が漂いますね。

グルメ！伊勢崎市宮子町「和風ダイニング 入伊勢崎店」さんのご紹介



「和風ダイニングー入伊勢崎店」

住所：伊勢崎市宮子町249-4

電話：0270-75-5372

営業時間 11:30~15:00(LO14:00)
17:00~24:00(LO23:30)

定休日 不定 座席数130 P50台

出典「アイマップ」
www.imap.ne.jp

২৮৮৮

私が大学受験の頃、一浪は当たり前な時代でした。よく一浪、人並みなんてまことしやかに言われてた時代。かく言う私も一浪の末、やっとある大学に拾ってもらいました。しかし今は現役入学が一般的なようで、浪人しての入学はかつてに比べると随分少なくなっている様子。自身がお世話になった予備校も、もはや影も形もありません。かつて予備校経営者が新聞の納税者番付上位にランクインしてたり、バブルの頃に高崎駅前の土地を都内有名予備校が凄いい坪単価で購入した噂があつたような、、、、、

それってかつては大学へ行く意味・価値というのが全国的に、ある種の共通認識として「すごく良いこと」と捉えていたというこの裏返しなんでしょうかねえ。今でもそうか、？

そしてAIが登場した今、米国では大学進学に対して違った価値観も登場してる様子。日本でもそんな価値観が生まれてくるのでしょうかねえ。うーん(笑)

